

もっと安心農産物 長生メロン栽培暦（令和 7 年産）

J A 長生 アールスメロン部会 もっと安心生産グループ

1. 土づくり

完熟堆肥を投入した土作り

2. 施肥 ☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守

	肥料名	施肥量（10a）	備考
基肥	ながいきメロン 826	140kg 以下	土壌分析結果により増減
	過リン酸石灰	40kg	土壌分析結果により増減
	硫酸カリ	20kg	土壌分析結果により増減
	苦土石灰	30kg	土壌分析結果により増減
	硫酸マグネシウム	30kg	土壌分析結果により増減
	アヅミン	40kg	地力増進法指定資材
追肥	養液土耕肥料	40kg（目安）	養液土耕栽培者

3. 防除

下記薬剤を含め、病害虫多発時には別表より薬剤を選択する。総散布薬剤回数は 18 回以内とする。

	月	管理作業	病害虫 の発生 推移	薬剤名	希釈倍率 ・ 処理量	対象病害虫	備考（耕種的防除の実 施等）	
3月	上旬	土壌消毒	―― べと病―― ―― コナジラミ・ハダニ―― ―― うどんこ病―― ―― つる枯病――	ソリレン	30 L/10a	ネオブセンチュウ他	MNSV 抵抗性品種の 作付け（発生圃場）	
	中旬	施肥		ネマトリクス粒剤または ネマキック粒剤	20kg/10a 20kg/10a	ネオブセンチュウ		
	下旬	定植		スタークル粒剤	1～2g/株	アブラムシ類・ハモグリバエ・ コナジラミ類		黄色粘着板による密 度把握を行う
4月	上旬	誘引		プロホース顆粒水和剤 ウラ DF	1000 倍 2000 倍	べと病・つる枯病 アブラムシ類・コナジラミ類	ハモグリバエ等の微小害 虫防除のため、ハウス 外の除草を実施する	
	中旬	ミバチ入前		スピノース顆粒水和剤	5000 倍	アザミウマ類・ハモグリバエ 類、ウリメカイ		
				ペンコセブフロアブル トリガート液剤	500 倍 1000 倍	べと病・つる枯病 トマトハモグリバエ		
	下旬	摘心 交配		プロホース顆粒水和剤 ハロックフロアブル プレオフロアブル	1000 倍 2000 倍 1000 倍	つる枯病・べと病 ハダニ類 ハモグリバエ類・ミナミキロア ザミウマ		
				ショウチノスケフロアブル	2000 倍	うどんこ病		
	5月	上旬		摘果・玉吊	交配 7 日後～20 日後（縦ネット終了期）まで薬散不可			摘心・摘果後は残渣を ハウス外へ持ち出し 処分するなど、圃場内 の衛生に努める
中旬	縦ネット終了 玉のばし	バンチョ TF 顆粒水和剤		2000 倍	うどんこ病・つる枯 病・べと病	アザミウマ類・ハモグリバエ 類・ウリメカイ		
		スピノース顆粒水和剤		5000 倍				
6月	下旬	袋かけ		マイトコーネフロアブル ショウチノスケフロアブル	1000 倍 2000 倍	ハダニ類 うどんこ病		
	上旬	ネット終了		ポリタキシ AL 水溶剤	2000 倍	うどんこ病・つる枯病 ・ハダニ類・アザミウマ類	ダニ被害は拡大が早 いため、即対処が必要	
				ベストガード水溶剤 ウラ DF	1000～2000 倍 2000 倍	コナジラミ類 アブラムシ類・コナジラミ類		
				ダニサバフロアブル	1000 倍	ハダニ類・コナジラミ類・ハモ グリバエ類		
	中旬	仕上げ期		プロホース顆粒水和剤	1000 倍	うどんこ病・つる枯病		
	下旬	収穫						

① 殺虫剤、殺ダニ剤（太字は防除回数にカウントされない薬剤）

農 薬 名	希釈倍率・ 使用量	使用時期	総使用 回数	対 象 害 虫	ミツバチ日数
ソイーン	30L/10a	作付 10～ 15 日前	1 回	ネコブセンチュウ、つる割病等	—
ネマトリンエース粒剤	15～20kg/10a	定植前	1 回	ネコブセンチュウ	—
ネマキック粒剤	15～20kg/10a	定植前	1 回	ネコブセンチュウ	—
スタークル粒剤	1～2g/株	定植時	1 回	コナジラミ類、ハモグリバエ類等	30 日
モベントフロアブル	2000	前日	3 回	コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ、ハダニ	1 日
スピノエース顆粒水和剤	5000	前日	2 回	アザミウマ類、ハモグリバエ類等	3 日
ベストガード [®] 水溶剤	1000～2000	7 日前	3 回	コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ	10 日
バリアート [®] 顆粒水和剤	2000～4000	前日	3 回	コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ	1 日
ウララ DF	2000～4000	前日	2 回	アブラムシ類、コナジラミ類(2000 倍のみ)	1 日
プレオフロアブル	1000	前日	2 回	ハモグリバエ類、アザミウマ	1 日
ガードホープ [®] 液剤	4000 (2L/㎡)	28 日前	1 回	ネコブセンチュウ	1 日
トリガード [®] 液剤	1000	前日	3 回	ハモグリバエ	1 日
ダニサハラフロアブル	1000	前日	2 回	ハダニ類	1 日
マイトコーネフロアブル	1000	前日	1 回	ハダニ類	1 日
バロックフロアブル	2000	前日	2 回	ハダニ類	1 日
コロマイト乳剤	1000	前日	2 回	ハダニ類、コナジラミ類、ハモグリバエ類	2～3 日

②殺菌剤（太字は防除回数にカウントされない薬剤）

農 薬 名	希釈倍率	使用時期	総使用 回数	対 象 病 害	ミツバチ日数
プロボース [®] 顆粒水和剤	1000	3 日前	5 回	べと病、つる枯病	1 日
ダコニール 1000	700～1000	3 日前	5 回	うどんこ病、つる枯病、べと病	1 日
ペンコセブフロアブル	※①500 ※②600	7 日前	5 回	※①つる枯病、※②べと病	3 日
トリフミン水和剤	3000～5000	前日	5 回	うどんこ病	1 日
キノドン [®] 水和剤 40	800～1000	10 日前	5 回	べと病	1 日
プロバティフロアブル	3000～4000	前日	3 回	うどんこ病	1 日
ショウチノスケフロアブル	2000	前日	2 回	うどんこ病	1 日
パンチョ TF 顆粒水和剤	2000	前日	2 回	うどんこ病	1 日
ラー [®] 水和剤	6000～8000	前日	3 回	うどんこ病	1 日
ベルコートフロアブル	1000	前日	5 回	うどんこ病、つる枯病、菌核病	1 日
アミスター 20 フロアブル	2000	前日	4 回	うどんこ病、つる枯病、べと病	1 日
ポリオキシ AL 水溶剤	1000～2000	前日	5 回	うどんこ病、つる枯病	2 日
イウフロアブル	500～1000	—	—	うどんこ病	3 日

③植物生長調整剤（必要に応じて使用する）

農 薬 名	使用目的	使 用 時 期	希釈倍数	散布液量	総使用回数
アークラント [®] 液剤	ネット形成及び 果実肥大促進	縦ネット発生期～横ネット発生 ただし収穫 3 日前まで	1000～4000	100～ 200ml／株	2 回

④展着剤

農 薬 名	使用目的	使 用 時 期	希釈倍数	散布液量	総使用回数
まくぴか	汚れの軽減、 均一な被膜	適時	3000 ～10000	—	—

泡立ちを抑えるため、散布タンクに水が溜まってから本剤を添加しましょう。